

工事請負契約の締結について

令和 6 年度震生湖太鼓橋架替工事について、次のとおり請負契約の変更を締結するものとする。

1 契約の目的

震生湖太鼓橋の架替

2 契約の変更事項

契約金額

(1) 原契約金額

102,695,670 円

(2) 変更後の契約金額

200,874,300 円

3 契約の相手方

秦野市平沢 319 番地の 5

株式会社水野建設

代表取締役 水 野 吉 和

令和 7 年 6 月 19 日提出

秦野市長 高 橋 昌 和

提案理由

仮設工の追加及び杭基礎工の工法変更が必要となったことから、契約金額の増額及び工期延期を行う変更契約を締結するため、議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第 2 条の規定により議会の議決を求めるものであります。

議案第 3 6 号説明資料

1 工事名

令和 6 年度震生湖太鼓橋架替工事

2 工事場所

秦野市今泉地内ほか

3 工事内容

(1) 当初

ア 準備工 一式

イ 土工 一式

ウ 上部工 橋体工 1 橋、アスファルト舗装工 3 1 平方メートル、
高欄工 3 4 メートル

エ 下部工 A 1 橋台工 1 基、A 2 橋台工 1 基、A 1 基礎杭工 2 本、
A 2 基礎杭工 2 本

オ 護岸工 一式

カ 仮設工 一式

(2) 変更内容

ア 仮設工（シートパイル）の追加（延長 8 1 メートル）

イ 杭基礎工の工法変更（直径 1. 0 メートルの杭 4 本から直径 0. 4 メートルの杭 1 1 本へ変更）

4 変更理由

(1) 仮設工の追加

湖水を堰き止めて橋台工事を実施するに当たり、大型土のうでの止水を実施したが、水の濁りなどにより設置時に隙間が生じ、水の侵入が止まらないことに加え、湖底からの湧き水もあるため、鋼矢板による止水対策の仮設工を追加するもの。

(2) 杭基礎工の工法変更

杭基礎工について、大型重機を用いた工法を予定していたが、震生湖への進入路下の法面が脆弱なため、搬入可能な小型重機での施工とし、当初より杭の本数を増やす工法に変更するもの。

5 契約金額

(1) 変更前

1 0 2, 6 9 5, 6 7 0 円（うち、取引に係る消費税及び地方消費税の額は、9, 3 3 5, 9 7 0 円）

(2) 変更後

2 0 0, 8 7 4, 3 0 0 円（うち、取引に係る消費税及び地方消費税の額は、1 8, 2 6 1, 3 0 0 円）

6 工期

(1) 変更前

令和 6 年 4 月 2 6 日から令和 7 年 9 月 3 0 日まで

（当初契約工期は、令和 6 年 4 月 2 6 日から令和 7 年 1 月 2 0 日まで）

(2) 変更後

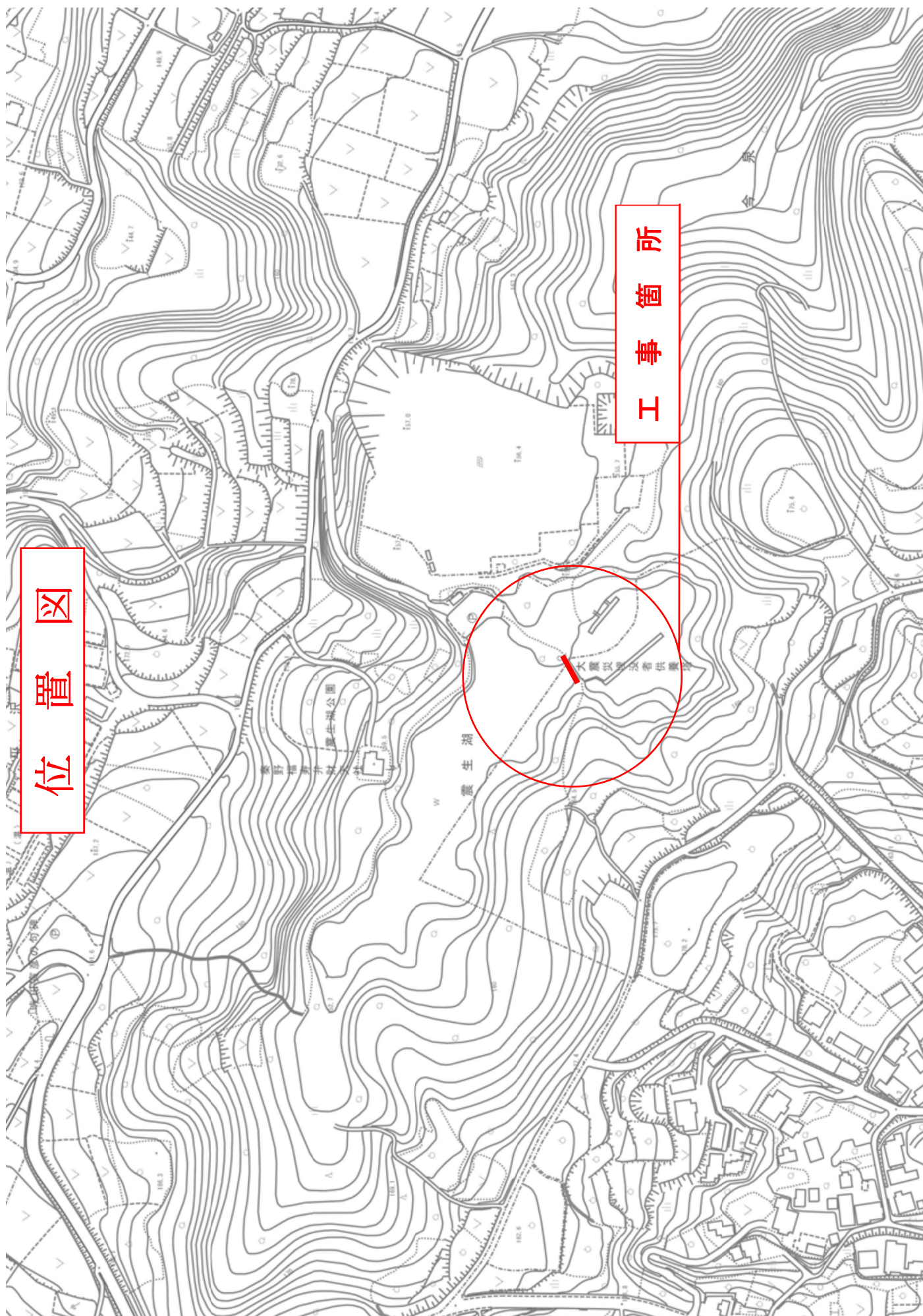
令和6年4月26日から令和8年2月2日まで（125日延長）

7 変更の仮契約締結日

令和7年6月9日

8 位置図等

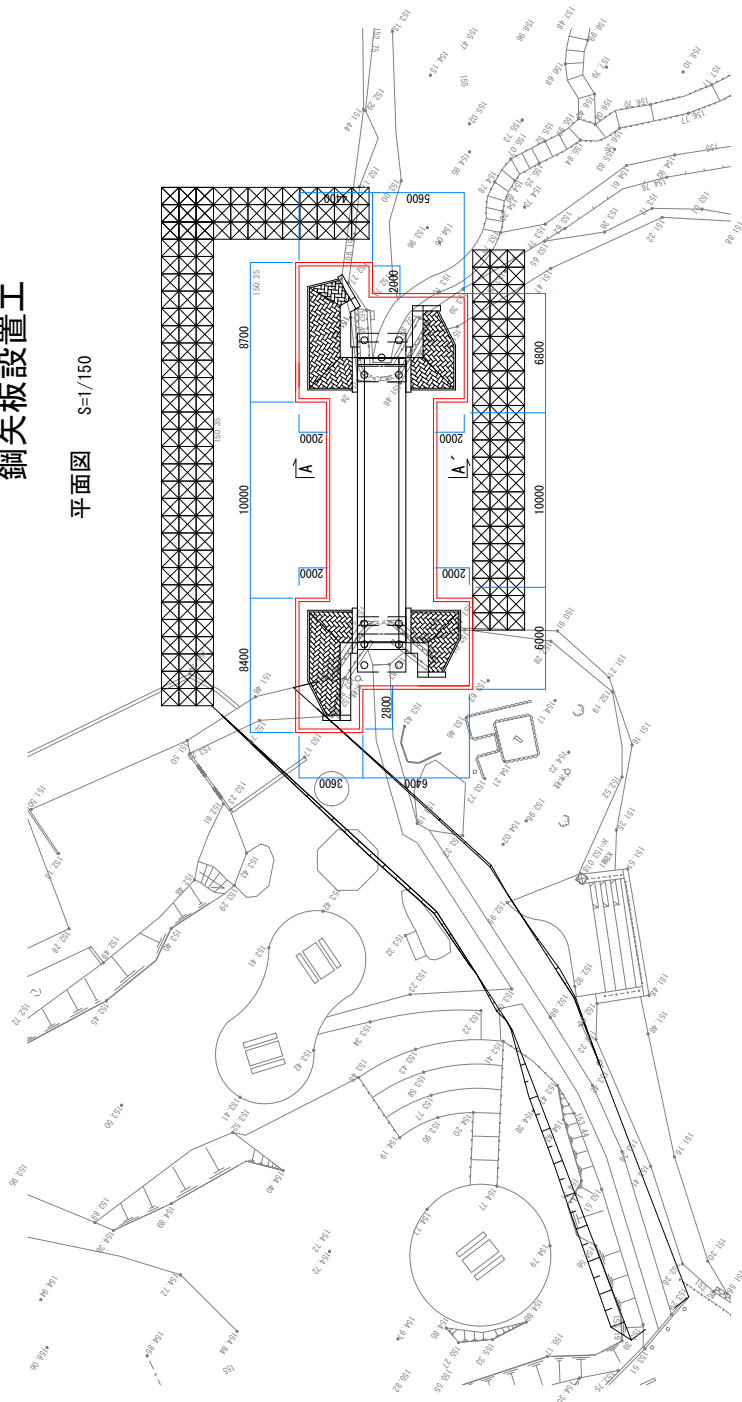
3ページ以下のとおり



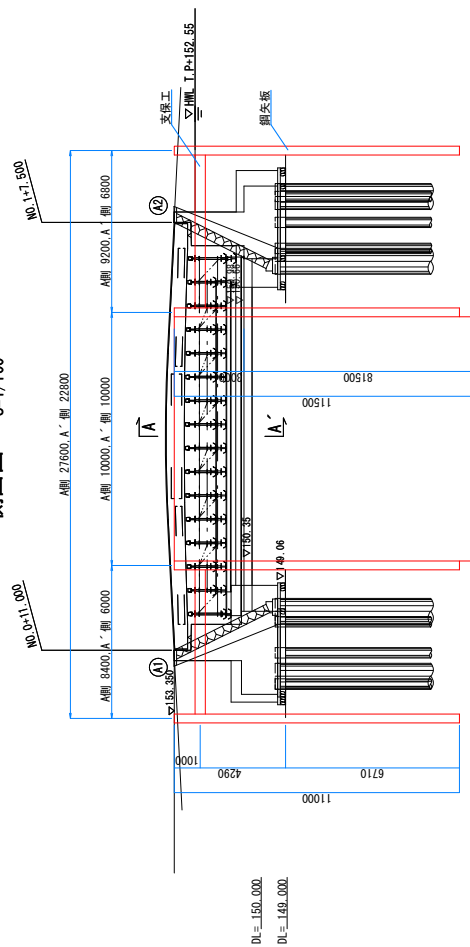
所
箇
事
工

鋼矢板設置工

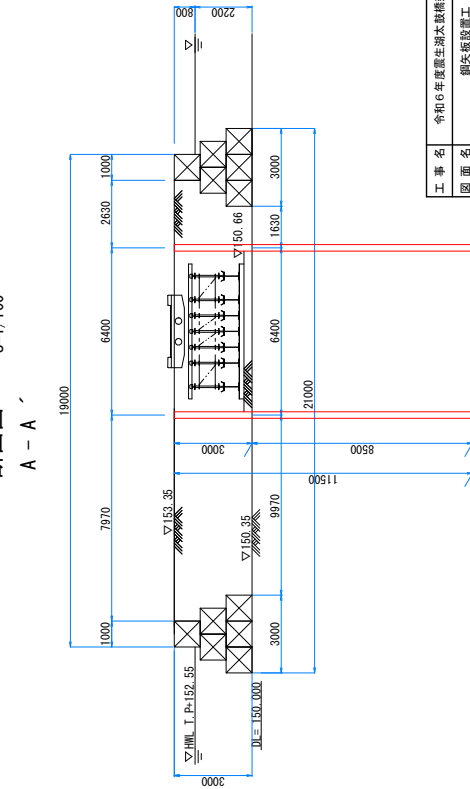
平面図 S=1/150



側面図 S=1/100

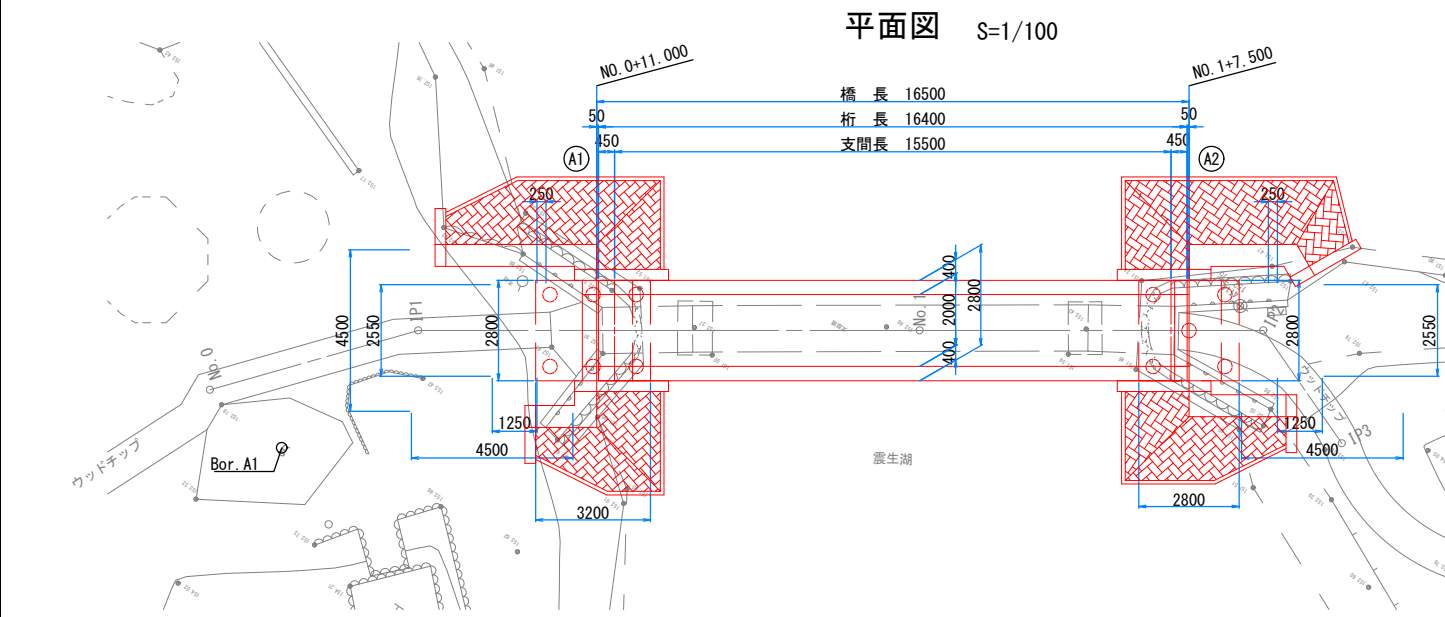
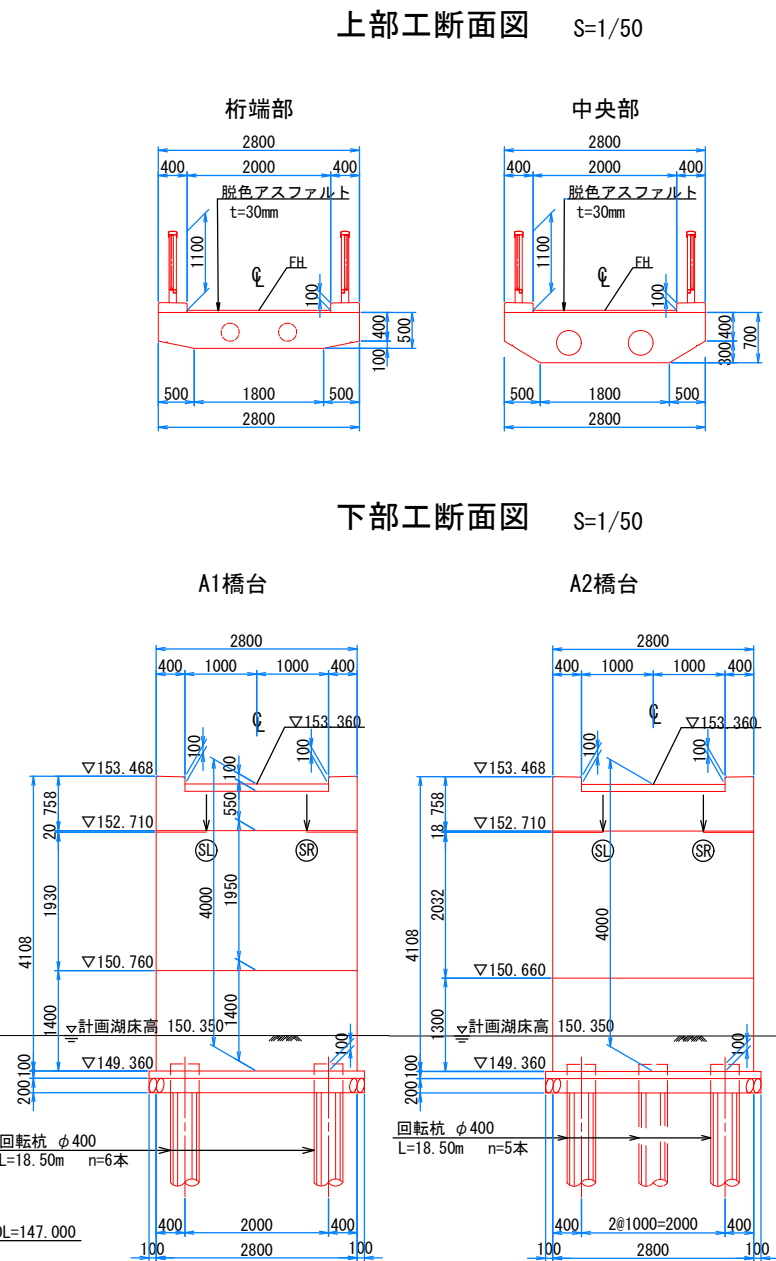
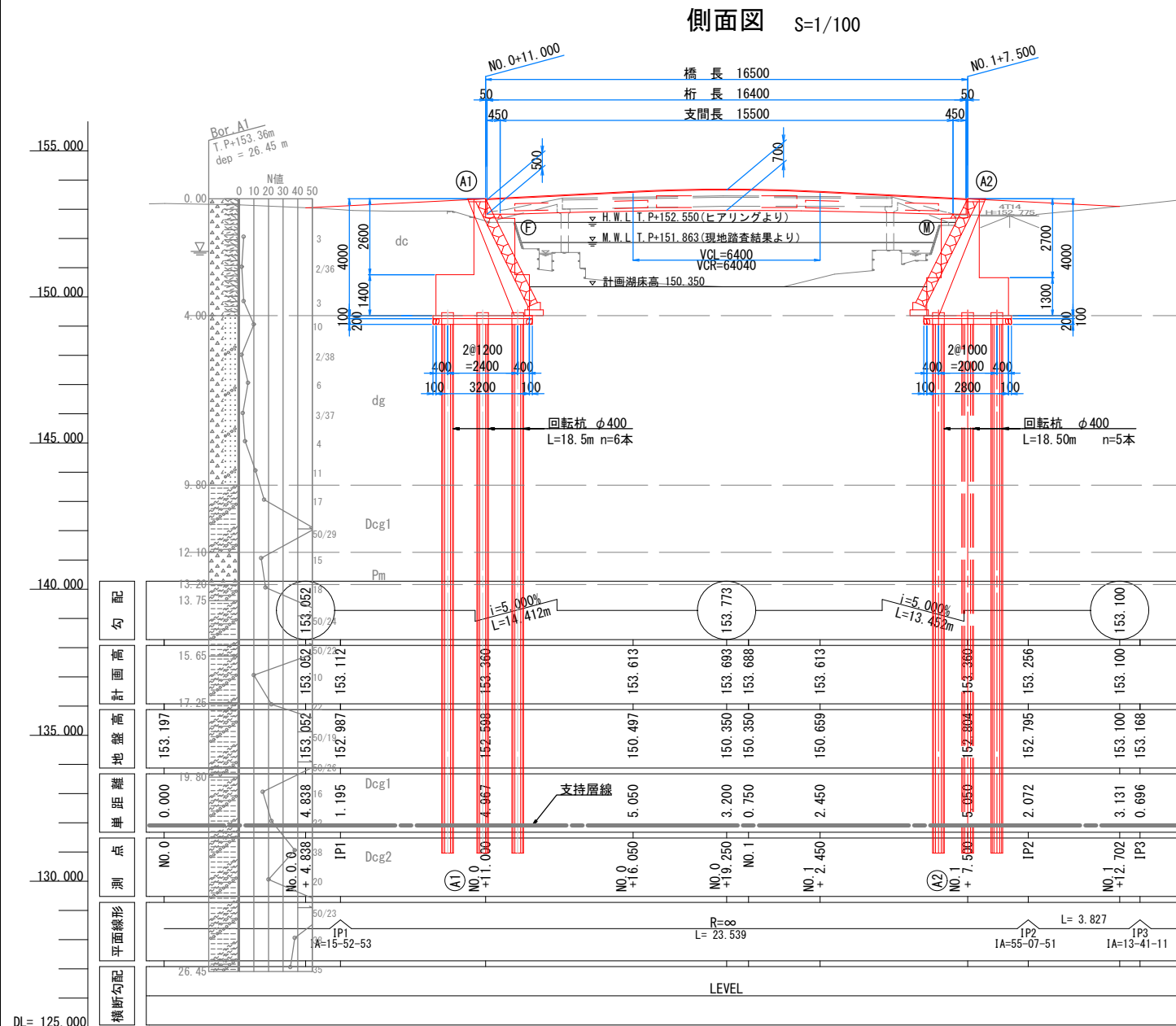


断面図 S=1/100



工事名	令和6年度富山県大規模築港工事
図面名	鋼矢板設置工
作成年月日	令和6年3月 日
縮尺	図示 (A1)
図面番号	32/32
会社名	
事業者名	富野市建設部道路整備課

全体一般図



層序表

主な土質名	記号
火山灰性粘性土	dc
礫混じり砂質土	dg
礫混じり火山灰質シルト 礫混じり火山灰質硬質シルト 礫混じり火山灰質固結シルト	Dcg1 Dcg2
軽石	Pm

設計条件表

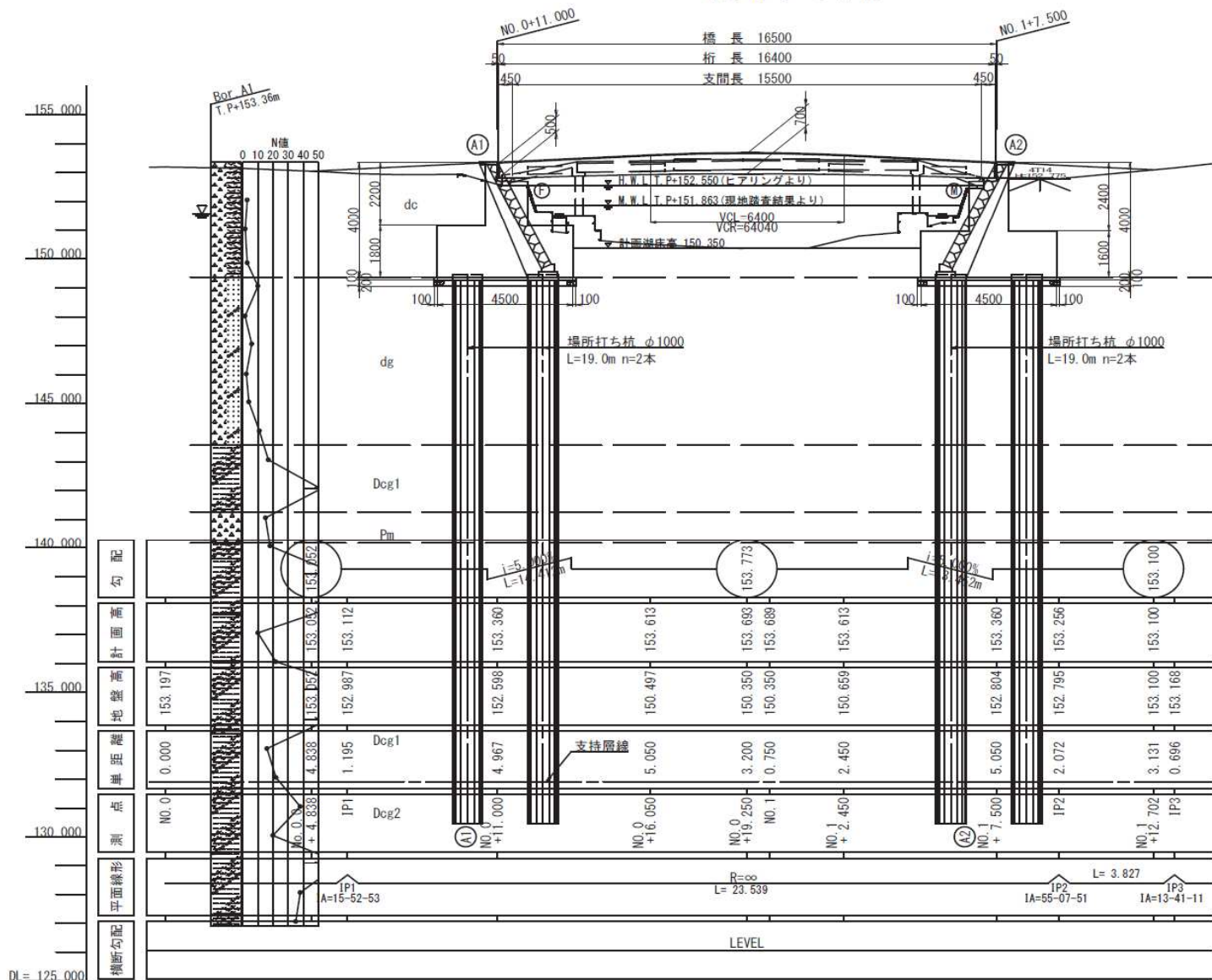
橋名	震生湖太鼓橋(仮称)
橋長	16.5m
桁長	16.4m
支間長	15.5m
幅員構成	総幅員 2.8m(0.4m+2.0m+0.4m) 有効幅員 2.0m
線形条件	平面線形 R=∞ 縦断線形 i=5% 横断線形 i=0% 斜角 A1: 90°, A2: 90°
交差条件	震生湖
添架物件	なし
舗装	脱色アスファルト舗装 t=30mm
橋の重要度の区分	A種の橋
設計活荷重	群集荷重
耐震設計条件	地域別補正係数 A1地域(C _z =1.0, C _z =1.2, C _z =1.0) 地盤分類別 II種地盤 地盤の液状化 dc層, dg層: 低減係数D=1/3(レベル1) 設計水平震度 A1橋台 レベル1地震動: k _h =0.25 レベル2地震動タイプ I: k _h =0.70 レベル2地震動タイプ II: k _h =0.61(橋軸方向) k _h =0.73(直角方向) A2橋台 レベル1地震動: k _h =0.23(橋軸方向) k _h =0.25(直角方向) レベル2地震動タイプ I: k _h =0.62(橋軸方向) k _h =0.70(直角方向) レベル2地震動タイプ II: k _h =0.41(橋軸方向) k _h =0.72(直角方向)
上部構造条件	形式 PC単純中空床版橋 主要鋼材 S _W FR19BL 1S28.6 材料 コンクリート 主桁: σ _{ck} =36N/mm ² , 地覆: σ _{ck} =24N/mm ² 鉄筋 SD845 架設方法 支柱支保工架設
下部構造条件	形式 橋台 逆T式橋台, 回転杭基礎(φ400) 橋台裏込土 γ=19kN/m ³ , φ=30°, C=0kN/m ² 橋台躯体 σ _{ck} =24N/mm ² , SD845 材料 基礎(底版) σ _{ck} =24N/mm ² , SD845 基礎(回転杭) STK490 支持地盤 Dcg2層
支承形式	A1: 固定支承, A2: 可動支承
適用基準等	道路橋示方書・同解説 Ⅴ(Ⅱ4.3) 立体構架耐震設計技術基準・同解説(S54.1)

(変更)

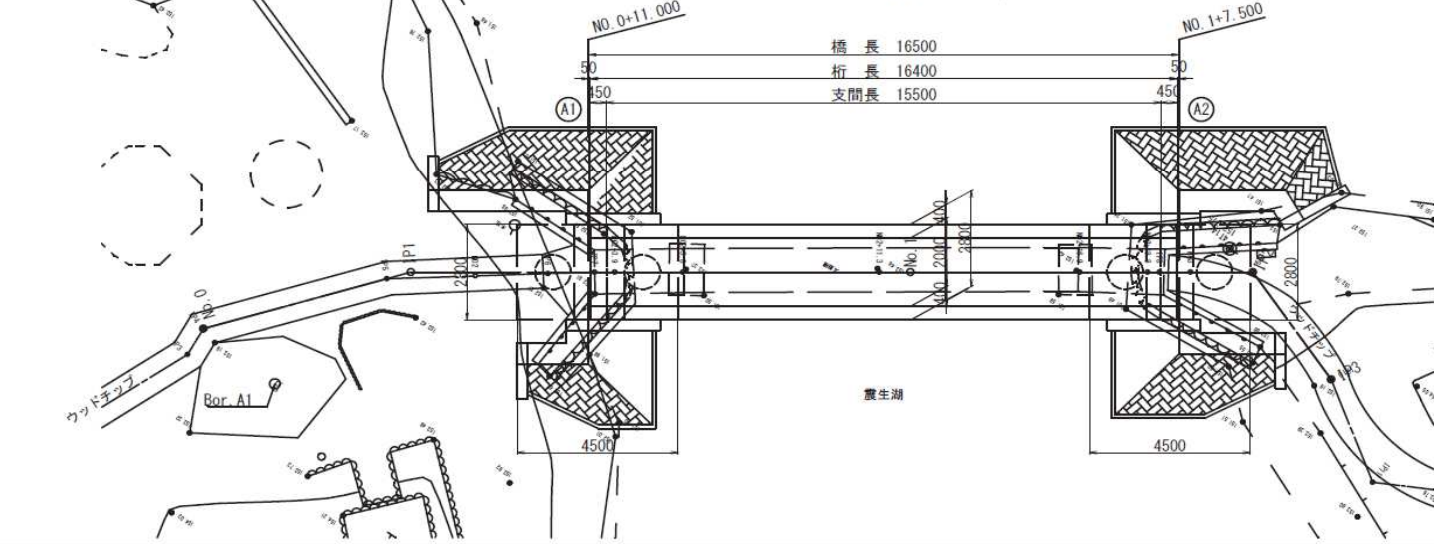
工 事 名	令和6年度震生湖太鼓橋架替工事
図 面 名	全体一般図
作成年月日	令和6年3月 日
縮 尺	図示 (A1) 図面番号 1 / 3 4
会社名	
事業者名	秦野市建設部道路整備課

全体一般図

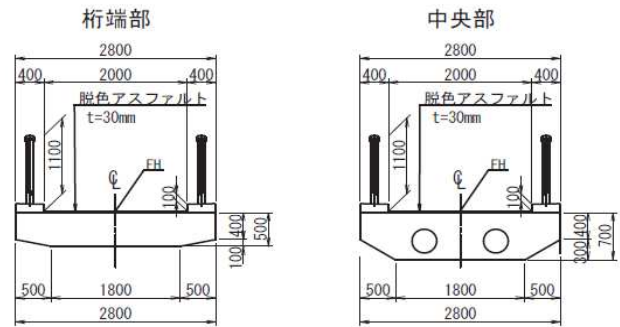
側面図 S=1/100



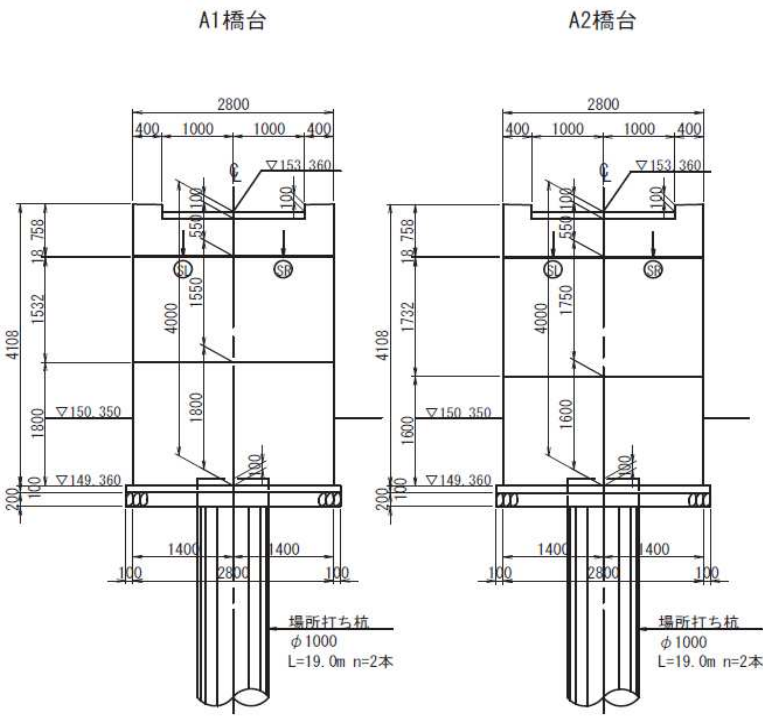
平面図 S=1/100



上部工断面図 S=1/50



下部工断面図 S=1/50



層序表	
主な土質名	記号
火山灰性粘性土	dc
礫混じり砂質土	dg
礫混じり火山灰質シルト 礫混じり火山灰質硬質シルト 礫混じり火山灰質固結シルト	Dcg1 Dcg2
軽石	Pm

設計条件表	
橋名	震生湖太鼓橋 (仮称)
橋長	16.5m
桁長	16.4m
支間長	15.5m
幅員構成	総幅員 2.8m (0.4m+2.0m+0.4m) 有効幅員 2.0m
線形条件	平面線形 R=∞ 縦断線形 i=5% 横断線形 i=0% 斜角 A1: 90°, A2: 90°
交差条件	震生湖
添架物件	なし
舗装	脱色アスファルト舗装 t=30mm
橋の重要度の区分	A2種の橋
設計活荷重	群集荷重
耐震設計条件	地震動補正係数 A1地域(C _z =1.0, C _z =1.2, C _z =1.0) 地震動種別 II種地震 地震の液状化 dc層, dg層: 低減係数D=1/3(レベル1) 設計水平震度 A1橋台 レベル1地震動: kh=0.25 レベル2地震動タイプ I: kh=0.70 レベル2地震動タイプ II: kh=0.61(橋軸方向) kh=0.73(直角方向) A2橋台 レベル1地震動: kh=0.23(橋軸方向) kh=0.25(直角方向) レベル2地震動タイプ I: kh=0.62(橋軸方向) kh=0.70(直角方向) レベル2地震動タイプ II: kh=0.41(橋軸方向) kh=0.73(直角方向)
上部構造条件	形式 PC単純中空床版橋 主要鋼材 S45C 1S28.6 材料 コンクリート 主筋: σ _{ck} ≤36N/mm ² , 地盤: σ _{ck} ≤24N/mm ² 鉄筋 SD345 架設方法 支柱支保工架設
下部構造条件	形式 橋台 逆T式橋台, 場所打ち杭基礎(φ1000) 橋台裏込土 γ=19kN/m ³ , φ=30°, C=0kN/m ² 材料 橋台躯体 σ _{ck} ≤24N/mm ² , SD345 基礎(底版) σ _{ck} ≤24N/mm ² , SD345 基礎(場所打ち杭) σ _{ck} ≤24N/mm ² , SD345 支持地盤 Dcg2層
支承形式	A1: 固定支承, A2: 可動支承
適用基準等	道路橋示方書・同解説 Ⅴ(Ⅱ4.3)

(当初)

工事名	令和6年度震生湖太鼓橋架替工事
図面名	全体一般図
作成年月日	令和6年3月 日
縮尺	図示 (A1) 図面番号 1 / 3 1
会社名	
事業者名	秦野市建設部道路整備課